

## 「学校給食発祥の地」鶴岡だからこそ 自校直営給食をやりませんか

学校給食の理想は「自校直営方式」です。

学校の敷地内に調理室があり、熱々の出来たての給食を提供できます。

子どもたちに調理室を見せたり、調理中の匂いが食欲を引き出します。

学校の教科と行事と連携した給食ができ、高い教育効果が発揮されます。

地産地消や、有機給食も取り組みやすく、地域の農家も元氣になります。

PFIセンターでなく、毎日がおいしい「自校直営給食」にしませんか。

### 「学校給食歴史館」

日本でただ一つ、学校給食の歴史資料を展示している「学校給食歴史館」が埼玉県北本市にあります。

日本で初めての給食は、「明治22年に山形県の大督寺内にある忠愛小学校で、貧困家庭の子どもたちに無償で昼食を提供したのが始まり」と紹介されています。

#### 選ばれるまち

全国の自治体は、急速な少子化のもとで、



日本でただ一つ  
学校給食歴史館  
(埼玉県北本市)

日本で初めての給食  
大督寺忠愛小学校の  
おにぎり給食を展示

館内入口に大督寺の  
「学校給食発祥の地」  
記念碑のレプリカ

## ふるさと賛歌 7

鈴木重雄(八色木)

### 半澤家と寺子屋

藤島から八色木の入口に皇大神社があり、境内に面した一角に、半澤家の遺跡がある。その中に「故半澤正水先生之碑」がある。



半澤家は、羽黒山修験者で羽黒派華藏院の末寺一乗院であり、祈願檀家百五軒をもつ山伏(先達)であった。今年(2023)6月、神事光弥さんと羽黒探訪の際、先達の慰霊碑が何基もあった。その中ノ一番碑が一乗院であった。

境内の広さはわからないが、羽黒山を遥拝(ようはい)できる小高い地に堂を設け、地方の信仰を集めていたと思われる。村の南はずれに行人塚があったが、一乗院の境内でなかったかと想像される。

この塚は、圍場整備の際、石仏とみられる石魂が多く発掘されたという。慶応4年(1868)、神仏分離により、一乗院は村鎮守となるよう請願している。

古文書によれば、八色木村鎮守を観音社とし、御神躰は稲倉魂尊とすること、末社をして大神宮一宇法龍大明神も守護したい、私儀

は社人(神職)として、勤め奉るとの願書を、明治2年10月、社寺方御役所に提出している。

明治5年(1872)、太政官布告により、「一般の人民、華士族農工商及び婦女子は必ず村に不学の戸なく、家に不学の人のないように、必ず学に従事すること」となった。いわゆる「学制頒布」である。

沿革誌によれば、明治9年(1876)12月20日、半澤家を借りて八栄小学校とし、半澤多聞が教員となった。八色木村と豊栄村の学齡児童142人のうち15人が就学している。当時、小中島村は須走と一緒に、地福院で学んだようである。

その後、八色木小鷹亀太郎家(丸山床屋)から熊木伊左衛門宅へと変わり、明治28年に西野160番地(旧八色木公金堂)に移った。半澤正水は、多聞の長男で明治13年2月15日生まれ。山形師範学校を卒業し、畑の一角に小屋を建て、村の青年を集めて私塾を開いた。特に日本外史の解説は塾生を魅了した。

大正3年4月20日、36歳の若さで没した。向学心に燃える若者が、夜の更けるのも忘れて勉強したと言う。私の父も学んだようであったが、教科書「日本外史」は袋とじの生紙で、全文漢字で読むことは出来なかった。



# 人間のすばらしさを実感 故中村哲さんの願い映画化



アフガニスタンとパキスタンで、35年に渡り、病や貧困に苦しむ人々に寄り添い続け、2019年12月に、何者かの凶弾で命を奪われた医師・中村哲さんの映画「劇場版 荒野に希望の灯を灯す」が、鶴岡まちなかキネマで上映されています。

10月27日まで

中村哲さんは当初、貧困と格差に苦しむアフガンで、医師として治療にあたりました。その後、アメリカの9・11報復でのアフガン戦争の最中、砂漠に用水路を引いて緑の大地に変え、食料生産を取り戻し、人々に希望を与える事業に、悪戦苦闘しながら取り組みました。

人間はここまで出来るのかという重いが伝わります。

上映は、まちなかキネマ。期間は、10月7日から10月27日までです。

上映時間は、「鶴岡まちなかキネマ」にお問い合わせ願います。

## 東田川史跡物語 『駐鑾之碑』（明治天皇御休所記念碑）①

史跡内に2つの石碑がある。



一つはこの『駐鑾（ちゅうらん）之碑』（篆書体）、2つは『島野嘉作氏稲作改良碑』で、これらも史跡の一部を構成しているもので大切にしたい。



天皇の東北・北海道74日の行幸は、明治14年の74日に及び、6大巡幸で最も長い。その中の県内行幸について、『山形県巡幸記』（山形県教育界編…1916（大正5）年刊…県図書館蔵）、『山形県行幸記念写真帳』（20点…編者不詳…1947年刊…県図書館蔵）『庄内地方御巡幸記』（編者不詳…1940年刊…東北公益文科大学蔵）などがある。

以上を主な参考に『駐鑾之碑』から郡制と国政のからみなどを考えたい。

今回は、碑の構造を見る写真と碑文（全文）

明治十四年辛巳秋八月車駕北巡以九月二十三日臨山形県東田川郡有栖川熾仁親王北白川能久親王及參議大隈重信大木喬任應從郡長率僚屬戸長及県會議員等奉迎盤上以清川村学校為一行在所。網魚最上川供覽黒川村農民奏猿樂賜金五十圓二十四日駐蹕郡衙賜金二百圓郡吏以下皆有恩賜特旨恤極貧及罹災者又給郡民八十歳以上養老資郡民献四季農事圖二十五日臨祝荘内藩士族後田郡墾開地賜金五百圓奨励耕織事豊榮村日向二右衛門捐費繕造行在所特賜金五十圓及物其他駐輦處狩川郡則見龍寺横山郡則管原美繼押切郡則加藤安與新堀郡則加藤勘右衛門余日郡則佐藤善治廻館郡則相馬繁之家及殖産興業供覽土宜万物者各賜金及物有差郡民謹呼稱為千歳榮典於是郡長石井武雄郡書記鈴木重光中郷吉田哲茂戸長五十嵐九兵衛加藤三七石栗六内富樫信好議員佐藤良輔石川養貞富樫多右衛門本間多右衛門等與郡父老謀欲建碑郡衙以記盛事因県令折田君請余属文顧兩羽隣在東山道一隅田川郡劃月山朝日二山及最上川舊属荘内藩今則分東西二郡隸三郷一百九十三郷幸際聖代開道路便舟車郡民籲七千六百金築郡衙輪奐之美遂至辱臨幸聖上撫下之恩郡民奉上之奉上誠相得而益深以嘉洋洋之化此宣垂後代以訓子孫者余不獨爲諸氏併爲國家萬世慶之爲也於是乎

明治十八年四月編修副長官從五位勲六等重野安繹撰  
陸軍大將一品大勲位熾仁親王篆額 從五位長焚書

を示し、次号から碑文の「読み下し」と「現代文」の合体文を示したい。



### 犬の仕事

民報と新つるおかを毎週配っている。数軒では居宅内に犬を飼っている。座敷お犬様が、各々特徴ある声で俺を毎回熱烈歓迎してくれる。犬は、飼い主と表に出ている時は声を出さないから、家の中にいる時は番犬だと思っているんだろうナ。

▲あれは3ヶ月位前、大型犬が俺をかじったんだ。放れているのが判れば注意も出来たもの。郵便受けに手を出したら後ろから2声も声が出たろうか、左腿に食いついたものだ。

▲大声を出しながら後ろ向くと、犬も大声で吠えている。吠えているが、お座りのスタイルだからこれで済んだんだ。お座りしていても彼の頭は、俺の顎のあたりだから、大きさは想像できるでしょ。そんな大型犬だった。

▲3日間ぐらいいはズボンにまで色が付いたが、今はどうってことない。幸いな事は、噛まれた場所がケッチタンポでなかったので、車の運転に支障がなかった。

▲その犬、この頃居る気配がしないんだ。ひよっとして処分？ だとしたら可哀そうだ。その日、戸を開けておいたのが悪いんだから。犬はかじった後、お座りのスタイルなら、なぜかじったんだ。犬だからしょうがないか。

▲俺も犬を飼ったものだが、数回は他人様をかじったネ。あの頃は放し飼いの結構あつて、俺の所も放し飼いは多かった。放れていれば、危険なら逃げ先は縁の下。普段他人様が来れば尻尾を振るだけ。だから、かじったのは、繋がれていた時だけなんだ。家の裏に繋がれてかじったのは、彼が仕事をしたって事や。

（石川）